

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370798

研究課題名(和文) 中世後期の山野紛争データベースの作成による地域社会形成に関する研究

研究課題名(英文) Study on community formation by the making of the fields and mountains dispute database which is in the latter half of the Middle Ages

研究代表者

小林 一岳 (kobayashi, kazutake)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：20298061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の中世後期における山野紛争のデータベースを作成し、公開することを主な目的とした。刊行されている史料集から山野紛争に関する史料を収集し、地名・紛争当事者・紛争原因・解決方法等についてのデータを抽出し、データベース化を行った。収集した関係史料は200点を超えるが、整理の結果138件のデータを得ることができた。データは、一覧表の形にして報告書において公開した。

同時に適切な地域を選定したフィールドワークによって、紛争地域の歴史的背景をさぐることも行い、地域社会形成と紛争との関係について考察した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to create a database related to conflicts over fields and mountains in the Japanese Middle Ages, and make it open to the public. We collected historical documents related to conflicts over fields and mountains from publications, extracted data regarding places, people, causes, solutions, and created the database. We collected more than 200 historical documents; as a result we found 138 relevant items through this research. Data related to this was listed in a report and published.

We also conducted field research to investigate the historical background of each conflict area, and considered the relationship between the generation of local societies and the conflicts.

研究分野：日本史

キーワード：紛争 秩序 環境 地域社会

1. 研究開始当初の背景

(1), 21世紀の人類にとって最大の課題は、戦争と環境問題であるといえよう。このふたつの問題は、一見別々の問題であるかのように見えるが、「資源」という人間の側からの自然への働きかけ(開発・利用)を中に入れて考えるならば、実は密接に関係している問題であることは明らかである。そして、歴史的な視点に立った場合も、このふたつは密接に関係している。特に、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の後、資源・環境と戦争との関係を「歴史」という長いスパンから考えることは重要な課題となっていよう。

(2), 本研究が扱う日本の中世社会は、戦争の時代と言うことができる。もちろん中世社会全体を見れば、比較的平和な時期も存在したが、その平和=秩序も紛争・戦争を前提としながら形成されていた。そしてそのような状況は、在地社会から国家レベルまでを覆っていたのである。このような紛争と秩序形成との関係について明らかにすることは、中世社会研究の最も重要な課題のひとつである。

2. 研究の目的

(1), 本研究は戦争の時代である中世の、特に中世後期について山野紛争のデータベースを作成し、公表することを主な目的とする。また、適切な地域を選定したフィールドワークにより、紛争地域の歴史的背景をさぐることも同時に行いたい。そして、作成データについての分析・研究と、フィールドワークの調査・研究成果を総合させることで、荘園制の変質・崩壊、惣村の成立、惣国一揆の成立、戦国大名権力から近世権力への移行、等の中世史研究上の重要課題について、あらたな視点からの新知見を獲得することを目指すものである。

(2), 中世社会の戦争や紛争は、村という共同体を最も基礎的な単位として現れる。そしてその紛争の最も大きな原因が、山野をめぐる紛争であるということができよう。中世の山野は、村の再生産のためには欠くことができないエリアであるというのとどまらず、その資源は流通を通じて商品化され、都市部で大量消費されていたのである。その山野資源も用木という建築用材にとどまらず、薪炭というエネルギー資源、鉱山資源、肥料としての草等にも及び、多様で重層的な資源利用がなされていた。中でも薪炭等のエネルギー資源は、社会全体にとって大きな意味を持ち、山野はまさに現在の石油産出国と同じような重要な資源地帯であったのである。そのため、その資源をめぐる紛争は熾烈にたたかわれ、また逆にその紛争を通じての秩序も地域から形成されていった。

(3), 本研究においては、このような山野資源をめぐる紛争関係史料について、できる限り

網羅的に収集・体系化し、公開可能なデータベースを作成することを最大の目的とする。そのうえで、いくつかの重要な事例について、史料検討やフィールドワークを通じて分析研究をすすめ、山野紛争とそれを通じての秩序形成という切り口から、日本中世社会の段階的特質について明らかにしたい。

(4), その際、中世を平安～鎌倉期、南北朝期、室町期、戦国期の4つの時期区分にわけて具体的な研究・作業を実施する。それぞれの時期は、領域型荘園の形成期、領域型荘園の動揺期、荘園の再編と惣村の形成期、荘園の崩壊と領域権力の形成期に対応している。これらの時期区分に応じて、山野紛争関係史料を網羅的に収集し、いくつかの特徴的な紛争事例について、フィールドワークも含めて集中的に分析・研究を行うことで、それぞれの時期の山野紛争と秩序形成の特色を明らかにすることができると思う。

(5), これまで、このデータベースの作成については、先に科学研究費補助金を受けての平安～鎌倉期については作成し、すでに報告書の形で公開している(『平成18年度～平成21年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書 日本中世における紛争と秩序形成に関する研究 - 山野紛争関係史料の収集と体系化 - 』)。しかし、第～期については、検討すべき史料数が膨大なため、データベース化の作業はまだ途上であり、これを完成させることが本研究の最大の目的である。

(6), それぞれの時期について述べるならば、第期は荘園制の動揺・変質の時期にあたっているが、山野紛争と荘園制の動揺がどのように関係しているのか、村の武力の発動形態や、地域を含んだ秩序の形成という問題とも関係させて明らかにすることが必要であろう。これは14世紀の内乱を考える上での基礎作業となる。また、第期においては荘園制の再編と紛争及び秩序形成との関係についての知見を得ることができるとと思われる。いわゆる惣村や惣国一揆の成立についても、新しい視点から検討することもできよう。第期については、新しい領域権力である大名権力と山野紛争との関係について、重要な成果を得ることができるとと思われる。地域の紛争と大名権力がどう関係しているのか、また地域から形成されてくる秩序を大名権力がどう取り込んでいくのか、さらに戦国大名権力がどのように近世権力に接続していくのかという重要な問題についても、新しい問題提起をすることができるであろう。

3. 研究の方法

(1), 研究方法としては、刊行されている中世の史料集から山野紛争関係史料を収集し、情

報カードに必要項目を記入する形で行う。対象とする史料集は県史類などの自治体史、『南北朝遺文』や『戦国遺文』である。

情報カードのフォーマットについては、従来の形式を継続し、山野紛争に関する、年、月、日、地域、紛争当事者、紛争の原因・状況、解決方法、原出典、掲載書誌等の情報を盛り込むことになる。

最終的には情報カードの内容を表計算ソフトに入力し、一覧表形式でのデータベースを作成する。将来的にはホームページ等で公開することを目指す。

(2), データベース作成作業と並行して、山野紛争関係史料が集中的に存在する地域をモデルケースとして選び、地域に残された関係史料収集や紛争地の地名確認や寺社の信仰や祭礼、宮座の調査等のフィールドワークを実施する。そして、紛争の原因となる荘園・村落の対立構造や、紛争の基盤となる組織の実態、紛争後に新たに形成された秩序の構造について明らかにする。

4. 研究成果

(1). データベースの作成については、平成 25 年度は、東北～関東、中部地方の一部までの史料収集を実施した。平成 26 年度は、中部から近畿・中国・四国地域の史料について収集した。最終年度である平成 27 年度については、収集作業については九州地域を中心に実施した。合わせて『南北朝遺文』から山野紛争関係史料を収集した。

さらに、収集した山野紛争関係史料についてのデータベース化の作業を行った。収集しカード化された中世後期の山野紛争関係史料は 200 点を超えるが、関連文書を整理するとデータベースの件数として 138 件のデータを得ることができた。データについては、調査報告書において一覧表の形で公開した。

ただ、近畿地方については県史レベルの史料集の刊行が実施されておらず、市町村史類まで範囲を広げる必要があるが、史料集の数が膨大になるため、今回の研究費の範囲内では作業を後回しにせざるを得なかった。さらに研究費の申請をすることにより、データベースの充実を図っていきたい。

(2), モデルケースとしては、主に南山城・大和・伊賀国境地帯を設定し、調査を実施した。具体的には京都府井手町高神社周辺・京都府木津川市涌出神社周辺・京都府南山城村田山周辺地域である。この地域は大都市京都の周辺とあって、山野利用も高度に進展し、紛争も多発している。室町期には山城国一揆の中心地域となり、紛争と宮座などの村落組織との関係や、紛争と惣国一揆の関係を知らるためには適切な地域である。具体的には高神社所蔵文書の撮影・フィールドワーク及び涌出神社及び田山周辺地域のフィールドワークを実施した。

特に高神社では、400 点を超える近世・近代文書について撮影を行い、これらの文書から中世の姿を復元するという大きな課題を得ることができたといえる。なお、高神社の中世文書については山城郷土資料館に寄託されており、同じく資料館に寄託される田山宮本座文書とともに調査・写真撮影を実施した。

その結果、400 点を超える高神社文書と 250 点を超える宮本座文書の目録を作成し、また高神社文書の中世の帳面と近世の宮座関係史料を翻刻して目録ともに報告書に掲載した。

フィールドワークの成果としては高神社及び多賀地区が中心となった。高神社に所蔵される文永 9 年の「高神社造営流記」(山城郷土資料館寄託)によれば、隣郷との山野紛争の際に住民から「兵乱米」を徴収し、紛争解決後に蔵に納めて運用して造営を行ったことが記されている。高神社には文永以外にも戦国期の造営記録もあり、紛争と村落組織・地域社会との関係を考察するのに相応しい地域である。そこで、平成 27 年 8 月に宮座の構成や祭礼の現状、山の利用などについての集中的な聞き取り調査を行った。さらに 10 月には祭礼についての調査も実施した。調査結果については論文の形で報告書に掲載した。

(3), さらに南山城地域と比較するために、15 世紀の山野紛争が集中的に残される、摂津国山田荘・播磨国淡河荘における文書所在調査を神戸市立文書館で実施し、合わせて現地調査を実施した。調査の結果紛争地名が確定できるとともに、山田荘の荘官を勤めていた栗花落家に紛争関係文書があることが判明し、栗花落文書について神戸市立博物館で調査を行った。

調査の結果、山野紛争から守護による地域秩序形成が進展することを見通すことができた。またこの地域は近世初頭にも大きな山野紛争が勃発しており、山野紛争と国境紛争がリンクする重要な地域であることが明らかになった。現在までの調査結果については、論文の形で報告書に掲載したが、今後さらに研究を進めることが必要となる地域である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

高木徳郎、荘園絵図の制作目的とその利用、早稲田教育評論、査読有、30-1、2015、pp45-58

〔図書〕(計 5 件)

小林一岳、竹林舎、南北朝内乱期の紛争と契約、酒井紀美編『契約・誓約・盟約』、2015、

高木徳郎、勉誠出版、生活の舞台としての村落をどうとらえるのか、秋山哲雄他編『日本中世史入門 論文を書こう』、2014、21P

高木徳郎、高志書院、在地領主と用水開発、五味文彦他編『水の中世』、2013、25P

高木徳郎、竹林舎、中世前期における山林資源の価値と境相論、井原今朝男編『富裕と貧困』、2013、23P

高木徳郎、岩田書院、中世における山野の領有と絵図、悪党研究会編『中世荘園の基層』、2013、25P

6．研究組織

(1)研究代表者

小林一岳 (KOBAYASI, Kazutake)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号：20298061

(2)連携研究者

高木徳郎 (TAKAGI, Tokuro)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：00318734

(3)研究協力者

朝比奈新 (ASAHINA, Arata)
遠藤啓之 (ENDO, Keisi)
遠藤ゆり子 (ENDO, Yuriko)
窪田涼子 (KUBOTA, Ryoko)
蔵持重裕 (KURAMOTI, Sigehiro)
黒田基樹 (KURODA, Motoki)
酒井紀美 (SAKAI, Kimi)
櫻井 彦 (SAKURAI, Yosio)
徳永裕之 (TOKUNAGA, Hiroshi)
根本 崇 (NEMOTO, Takasi)
則竹雄一 (NORITAKE, Yuiti)
長谷川裕子 (HASEGAWA, Yasuko)
松本尚之 (MATUMOTO, Naoyuki)
萬井良大 (MANI, Ryota)
若林陵一 (WAKABAYASI, Ryoiti)
渡邊奈津子 (WATANABE, Natuko)
渡邊浩貴 (WATANABE, Hiroki)